

「輝くふるさと愛媛づくり」

平成 21 年度「こんにちは！知事です」知事講話

平成 21 年 11 月 2 日（月）

於：松山市・県中予地方局

はじめに

「こんにちは！知事です」に御出席いただきまして、誠にありがとうございました。

この制度は、私が県知事に就任して早速、テーマとして、県政のPR方々、県民の皆様方から直接お声を聞かせていただく機会として設けまして 11 年目になります。

私の県政がスタートして 11 年を経過しながら、随分世の中変わってきたなという正直な思いもございます。

御承知のように、今度の総選挙で政権交代がございました。今後の流れがどうなるのか、はっきりは見えませんが、正直申し上げまして、今の国の財政運営、そして、それが地方財政運営に与える影響というのを、期待も含めながら不安を抱えているというのが正直なところでもあります。

私の愛媛県政がスタートいたしました時点で私の目指した方向は、「輝くふるさとづくり」と今日のテーマにはございますけれども、今「官主導」から「政治主導」と言われていますけれども、言うなれば、県庁が、お上が決めて県民はそれに従ってください、というスタイルの行政であったのを、なるべく情報を公開し、皆さんの声を聴きながら、そして、与えられた条件の中で、困ったところは助けてあげる、あるいは、どこが恵まれていない分野なのか、そこに光を当てるとか、そういった総論的な方向を進めてまいりました。

国、地方ともに逼迫する財政状況

それで、元の話に戻りますけれども、実は今、愛媛県は、他の都道府県、あるいは市町村も同じですけれども、厳しい財政難に見舞われております。それは、御承知のように、小泉構造改革の中で「三位一体改革」というのが大きなテーマでありまして、その改革の中で平成 16 年から 3 年間かけて、地方交付税が 5 兆 1,000 億円カットされました。

簡単に申し上げますと、県や市町村が仕事をするのに、例えば 100 万円の仕事を最低限しなければならぬとすると、収入が 35 万円だったら残り 65 万円足りないから、それは地方交付税という形で国がお金をちゃんと支給して 100 万円の仕事ができるようにしましょうと。東京都のように税収がたっぷりあるところは、例えば 150 万円も収入があれば 100 万円の仕事をするのに 50 万円はもっと別のことで仕事ができるとい

う自治体もありますが、多くの県は仕事をするうえでの歳入が足りません。

そういった形で毎年約 15～16 兆円の不足分を国が補填してきたのですが、今申し上げたように大幅なカットは何かと言うと、高齢者医療、介護費用、障害者福祉、生活保護といった社会保障関係の経費がどんどんどんどん伸びていきますけれども、税収は上がらない、そして税金を増やすことには国民が反対だ。ということになると、借金財政でやらなければならない。そうすると、遣り繰りをするためには、国も切り詰めるけれども地方も切り詰めてくれ、この発想が今言った地方交付税 5 兆 1,000 億円のカットになりました。

今の財政運営はどんな状況かと言いますと、本来、ルール上、都道府県や市町村がやる仕事を賄う分の税収不足、それを補う必要経費は、今年度の予算では 21 兆円の地方交付税が理論的には必要なんです。ところが、地方交付税の原資といいますのは、所得税、法人税、消費税、タバコ税、酒税という国税 5 税で税務署が徴収した税金の中の約 3 割を原資として地方に地方交付税として交付するという制度ですけれども、これが 11 兆円しかありません。地方が不足するお金は 21 兆円ですから、あと 10 兆円の大きな穴が空きます。大きな穴が空くうちの 5 兆円は、国も借金する、そして地方も借金するという形で穴埋めをする。あと足りない 5 兆円は、「臨時財政対策債」といって、「県や市町村が借金をしなさい。その代わりに、将来借金を元利返還する時は、国が後年度の地方交付税で埋めてあげますから。」という、言うなれば借金の先送りやりましょう、というので今年度の予算はでき上がっています。正直、国から仕送りすることが法律上定められている額の半分しか来ないから、あとは借金で賄っている。

じゃ、国はどうかと言うと、国もべらぼうな借金で仕事をやっています。税収が落ち込めば、支出はいくらカットしても追い付きません。平成 20 年度の国の予算では、「国債」と言って借金をして賄う経費が 25 兆円でした。たった 25 兆円かと思わないでください。実は、過去に借金をしたものの返済期限が来るから、90 何兆円の借金を返さないといけないので、それはまた借金して返しながらか、借金を新しく増やす額が 25 兆円と言う意味です。

ところが、今年度の予算は、御存知のような税収の落ち込みに加えて経済危機という世界金融恐慌が目の前に迫りましたので、麻生内閣では 33 兆円の国債を発行しました。8 兆円借金が新しく増えたわけです。その後、大幅な経済対策、つまり雇用問題、この経営ピンチを乗り切るためにということで大型補正予算が組まれまして、そこで 11 兆円の国債が増発されました。ということは、今年の当初予算プラス大型補正で合計すると 44 兆円という借金、国債がいったん膨れ上がりました。

それで、今何が起きているかと言うと、税収は、今年度は 46 兆円見込んでおりましたが、来年度は大幅に落ちるから税収は 40 兆円に落ちると見込まれています。新聞で御覧のように、各省庁が要求した額は 95 兆円の歳出です。無駄を切ったうえで子ども

手当などいろんなことをやろうとすると 95 兆円かかる。結果として、ふたを開けないとわかりませんが、おそらく国債の発行は 50 兆円ぐらいやらないと財政が成り立たないだろうな。ということは、平成 20 年度の 25 兆円の借金発行が平成 22 年度には 50 兆円という倍の借金をしないと国家財政が成り立たないという大前提があって、その中で地方は、今まで申し上げたように、平成 16 年以来 5 兆 1,000 億円という交付税がカットされて干上がって悲鳴を上げました。

県財政の構造改革断行

県庁もあらゆる経費を切り込みました。公共事業も、予算のピーク時に比べると 3 割に減少しています。だから、建設業者は泣いているはず。良い時に 100 の仕事があったのに、今は 30 しか仕事がない。それでも、毎年お金が必要になってくる。

何を意味するかと言いますと、国の方では、年金、高齢者医療、介護、いろんな社会保障の経費が、現在のところ 25 兆円ぐらいの歳出ですが、毎年毎年 1 兆円ずつ増えるんです。26 兆円、27 兆円、28 兆円と毎年 1 兆円ずつ増えていく。地方はどうかというと、地方も、乳幼児医療費とか、障害者支援費とか、さまざまな形で社会保障の経費が、県、市町村を通じて 7,000 億円増えていっています。黙っていても、国と地方で毎年 1 兆 7,000 億円という歳出が増えていきますから、3 年間では 5 兆円の経費が増えている。収入がなければどうするかと言うと、あらゆる経費を切って切って切り込まないと持たないというのが今の状況になっております。

今回の総選挙では、そういった増税の話とか、消費税の話とか、出せば選挙に不利だということで、民主党は「4 年間は消費税は上げません。」と言って、自民党は「3 年後には消費税を上げる必要があります。」と言うだけで、そこを棚上げしましたから、そうすると、この状態はもっと続くのだろうなというのが今の危機意識でもあります。

その中で地方はどうやって生きていけばいいのかというのは、それぞれ与えられた条件の中で生きていかなければなりません。

県がやったことは、あらゆる経費を切っても社会保障の経費が出てこないから、この 4 年間、県庁職員には、学校の先生や警察官も含めて、給与カットを臨時的に行っています。県庁の職員の定員も、この 4 年間で約 1 割削減しました。それでも追い付きません。

というのが、現在置かれた愛媛県の状況であります。

「輝くふるさと愛媛づくり」に向けて

県の施策にはさまざまな仕組みがありますが、私が申し上げたいのは、愛媛県民が、みんな「愛媛一家」という気持ちで、誰が困っている、どこが苦しんでいる、それを自分たちの力で助け上げられるかどうか。行政は、その呼び水としての発想なり、あ

るいはアイデアを提供してもらったら、県民が協働して一緒にやっていただく。そんな社会が形成できれば、本当に一人ひとりの心が輝くふるさとができていくのではないか、それが、私の提唱している「輝くふるさと愛媛づくり」でもあります。

その目指すべき方向へ向けまして、私なりにこの 3 期の愛媛県政の中で目標をいろいろ掲げました。

【森林そ生】

一つが「森林そ生」ということであります。これは、洪水とか濁水とか諸般の原因は、山の中の森が荒れっ放しになっているから、雨が降ったらどっと流れ出す、そして濁水の時には水が足りない。森を手入れしておけば下草が十分に生えて、雨が降った時には、そこで吸収して地下水になって時間をかけて流れていきます。そういう形で昔の森に戻す努力をすべきだというのが、平成 13 年度に掲げた「森林そ生元年」というスローガンでありました。

そのためには、切った木、いわゆる間伐材を使っていただかないと、森を手入れすればするほど間伐した経費が全部大赤字になっていくんです。これは、外材の輸入によって生じたことでもありますけれども。

そういった点で、愛媛県では、地域材を利用して民間住宅を建築していただければ、住宅ローンを組む時には、その金利に愛媛県が助成します。ということですから、普通の木造以外の建物よりも住宅ローンは安くなりますよ、という政策をやりました。

もう一つは、公共建築物を県や市町村が木造建築で進めるべきである。建築基準法では 3 階建て以上の一定の用途の建物を木造とすることが困難であったり、1 階建て、2 階建てであっても学校給食調理場のように火をたくさん使う所は危ないからということで木の仕上げ材が認められませんが、法律上許される範囲につきましては、県はすべて木造で、高等学校の校舎であれ、あらゆる施設を木造で造ってまいりました。

市町村にも呼びかけました。この 8 年間で県内で、県と市町村が造った建物は 400 ほどありますけれども、その 97% は木造でできております。おそらく全国 47 都道府県で愛媛県ぐらいじゃないかと思えます。

典型的な例が（松山市）市坪に造った県立武道館であります。これは、県内の県産材、杉を使って建てました。県産材を使う以上は県産品も使おうということで、屋根は菊間瓦 32 万枚を、そして外壁は大島石 3,000 トンを使用いたしました。中には、壁面は砥部焼のタイル、調度品には桜井漆器というような形で、県産品だけのものを造りました。ややコストは掛かりましたが、あの頃はまだ県財政もなんとかなっていたからで、今からやろうと思ったらできないと思えます。

その他、今、四国中央市の製紙の原料は、ほとんどがオーストラリアとかチリとかカナダとか外国からチップやパルプを輸入して紙を作っておりますけれども、愛媛県

での間伐の端材を原料に使ってほしいという要請もいたしました。それから、四国電力と住友共同電力にお願いしまして、火力発電は今ほとんど石炭に切り替わっておりますけれども、その石炭で発電する時には間伐の端材をその中で混ぜて使うようお願いして進んでもおります。

さまざまな形で県がアクセントを入れてきたのが、今の「森林そ生」というコンセプトであります。

【南予地域活性化対策】

それから、現在、愛媛県の場合、地域間格差が極めて大きい。例えば、市町村民所得と言いますけれども、当然のことながら、その中には企業が上げる所得も含まれますが、県民一人当たりの所得は、新居浜市の市民が 100 といたしますと、実は、宇和島、八幡浜、南予エリアは 64～5。つまり、新居浜市民が 100 の生活ができれば、南予の人は 64～5 の生活しかできないという地域間格差が出ております。

大きな理由の一つは、御承知のように農業のウェイトが高いからであります。専業農家で食べていくと言っても大した収入はありません。ほとんどの農家の、愛媛県での農家の平均所得は 50 万円とか 100 万円とか、つまり、別の仕事を持ちながら片手間でなければ農業が成り立たない。これが産業構造としてあります。

そこで、県では、県庁及び地方局に「南予地域活性化特別対策本部」、「現地対策本部」を設け、県政の重要課題である南予地域の活性化に取り組んでおりまして、南予の地域を活性化しなければいけないということと、農業を梃入れしなければいけない、この 2 つが絡んで、南予地域活性化という名前の下に農林水産業の梃入れを行っております。

この考え方の一つは、今までの農業では収益が上がらないから、農産物をなるべく地元で加工して付加価値を付けて、しかも流通ルートも自ら直接探して、言うなれば、農業は 1 次産業と言われておりますけれども、加工する 2 次産業、それから流通ルートの 3 次産業、それを複合的に「6 次産業」と言ってますが、新しく農産物の付加価値を付けて、それを全国に発信して消費の拡大を図ることを至上命題として取り組んでおります。そのために作りましたのが「えひめ愛フード推進機構」、これは、生産者、加工者、流通業者、消費者、すべての団体を網羅しまして、農林水産物に「愛媛産には、愛がある。」というキャッチフレーズを作りまして、その中でも優れた品質を持つ農林水産物などに「愛」あるブランド製品として機構が認定しており、温州みかんをはじめ 35 品目 68 産品を愛媛の「愛」あるブランドとして全国に売り込みをかけております。今日、私が胸に付けております「愛」のマークは、愛媛県デザイン協会の山内敏功会長がデザインされたもの。これをさっき申し上げた愛媛の誇る産品に「愛」あるブランドマークを付けて宣伝いたしております。

ちょっと残念なのは、今年、NHKの大河ドラマ「天地人」で直江兼継が「愛」の兜を使っておりまして、間もなく終了しますので、「愛」あるブランドを愛媛が取り戻して、ほんとはこういうのじゃなくて帽子に「愛」のマークを付けておけば、こっちの方ももっと有名になったのかなと。冗談ですけども。

この意味は、愛媛産品には農家の愛情がこもっている、県民の愛がこもっている。そして、愛情を持って育てた産品に「愛」という心の付加価値を付けて全国で消費してもらいたいという願いを込めているからでもあります。

【愛と心のネットワークづくり】

そして、大きな大きな県政のテーマといたしておりますのが「愛と心のネットワーク」と称しておりますけれども、これは、県民が本来持っている、1200年前からの衛門三郎以来の、お遍路さんを接待する心、人を思い遣る心、その県民性を県政の中で生かしていきたいという願いを込めて、「愛と心のネットワーク」を提唱いたしております。

今までは、何かあると「行政はけしからん、何をやっている。」だから、県や市町村がお金を出しては住民の要請に応えていた。財政難になってくると賄いきれなくなります。典型的なことを言いますと、「道路が汚れている。川が汚れている。あそこはけしからん、何とかしろ。」という苦情が来ます。でも、それは、県の職員や市町村の職員だけでは手が足りませんから、結果としては業者にお金を出して「ここを綺麗にしてください。」ということをやっていましたけれども、愛媛県の場合には、「愛リバー」「愛ロード」「愛ビーチ」制度というのを作りまして、この川の、あるいは道路のどこからどこまでの、例えば2kmあるいは1km、その区間は、何とか町、何とか団体という有志で管理をしてくださいということで、現在、2万1~2,000人の県民が県道、県の管理河川、県の海岸を清掃していただいております。

この意識を県民に普及したいと思ひまして、平成17年から「サマーボランティア・キャンペーン」というのを始めました。これは、それぞれの地域において、ここでこんなことを助けてもらえれば有難い、あるいは老人施設に訪問してもらえれば有難い、子育ての応援をしてもらえれば有難い、あるいは、スポーツ・文化イベントの時にお手伝いする人があったら助かるというのを、7月から9月までの3ヶ月間、リストを作りまして県民にお配りして、「どうか、この期間、ボランティアに参加してください。」という制度をスタートしました。初年度は、1万7,000人弱の参加がありました。翌年は2万人を超えました。そして3万人を超えて、今年が4万4,000人弱ということで、年々、だいたい7,000人平均で参加人員が増えていっております。

正直申し上げまして、地域によって参加意識にはものすごい格差があります。今年のサマーボランティア・キャンペーンでは、参加率最高が上島町です。25%の町民が

参加してもらえました。住民の4人に1人は参加していただきました。八幡浜市は、10%、10人に1人の市民が参加していただきました。県内平均の参加率は約3%ですが、なんと松山市は、人口が多いんですが0.8%の参加でございました。これは、地域間でボランティアに参加することのパーセンテージで言っているわけではありません。地域性があるなと思いますのは、言うなれば、だんだん人口の少ないところに行けば行くほど、「こんなボランティアを県が進めているよ、やってみたらどう。」という地域住民の間の横の情報伝達が多いんだろうなと思います。松山市民は、こう言っちゃいけませんけれども、「隣りは何をやるぞ。」ということで、「こんなキャンペーンがあるから、手伝いに一緒に行こうよ。」というような情報の伝わり方が少ないのかなという感じがいたします。いずれにしましても、都市部は極めて少ないんですが、でも、先ほど申し上げた、私のふるさと八幡浜市の比率が高いというのは、ボランティアの参加率のウェイトを八幡浜高校の生徒がかなり参加して、ほとんど全員が参加しているということも影響いたしております。

ボランティア・キャンペーンの参加率だけで物を言うわけではありませんけれども、県民がお互いに助け合う、こういう社会によって、何でもかんでも税金でという発想が変わっていったいただければと思いますし、また、県の仕組み自体も、今までお金を付けてやっていたのを「ゼロ予算事業」といって、「こういうことをやりましょう。アイデアは県が出します。こんな仕組みでやっていただけませんか。」ということで、本来ならば予算をつけて行う事業150いくつを「ゼロ予算事業」として実施しております。

おわりに

皆さんにお配りしたペーパーで、今、県政が目指してやっている事業をずらずら文章で並べておりますけれども、基本的なコンセプトはそういうことであるということをお知らせしたかったのであります。

この後、皆さん方の御意見を伺うと、「ちょっと言おうと思っていたけど、言いにくくなったな。」と思われる方もたくさんいらっしゃるかもしれません。それは、別に遠慮しなくて結構です。お話を承ったうえで、税金を投入してでもやらなきゃいけないことなのか、あるいは、税金は投入しないけれども、県が音頭を取って、そのの所を何とか良くする方向に持っていけるかどうか、さまざまな皆さん方のフリーな御意見をベースとして考えていきたいと思っております。